

トップインタビュー連動企画

障がい者雇用、就労促進に取り組む 川崎市の「一歩先行く」施策に注目！

本誌トップインタビューでも紹介させていただいたように、障がい者の雇用・就労にもっとも積極的な都市を目指し、三〇の行動にチャレンジしている川崎市。その多彩な事業の中でも、今、注目すべき施策について、川崎市健康福祉局の榎澤直美さんと滝口和央さんにお話をうかがった。



川崎市 健康福祉局
障害保健福祉部
障害者雇用・就労推進課
課長
榎澤直美さん



川崎市 健康福祉局
障害保健福祉部
障害者雇用・就労推進課
施策推進担当係長
滝口和央さん

合理的配慮を体感できる 公開セミナーを開催

来年四月施行の改正障害者雇用促進法にて、障がい者に対する合理的配慮が義務化される。その重々しい言葉の雰囲気戸惑っている企業も多いだろう。そんな企業にこそ役立つ施策が、一〇月三〇日、十一月六日に開催されるセミナー「合理的配慮を体感し、働きやすい職場を創り出そう。」だ。

対象は川崎市内外問わず、申し込みをした企業等二〇社。障がい者と支援者も参加する。

その内容がまた興味深い。メインは、具体的な雇用事例を用いたロールプレイ。相互の立場でのやりとりを体験しながら、「合理的配慮とは何か」が学べる。さらに疑似コミュニケーションで、合理的配慮を提供するためのコミュニケーション術を身に

付ける。「合理的配慮で大切になるのはコミュニケーションです。このセミナーでは、双方が一堂に会することによって、当事者が提供してほしいと考える合理的配慮に対して企業はどう対応したらいいか。当事者はどう伝えたらいいのか。そういったコミュニケーション術について学んでいただきたいと考えています」と滝口和央さん。

ここで得た学びは広く公開し、セミナー自体もパッケージ提供する予定だ。榎澤直美さんはいう。「車椅子の人に対しては通路に物を置かないなど、配慮すべきことが比較的他にありますが、精神に障がいがある人に対しては、何に配慮をしたらいいのかがわかりにくい。ですから、今回のセミナーでは、ロールプレイを通して、『ああ、配慮とは、お互いのコミュニケーションを成り立たせればできるものなんだ』と気付いてもら

えるような企画を考えました」。もし、自分の隣にいる人に何かの懸念事項があったとき、何をすれば、あるいはしなければ配慮になるのか。それを考えるのは人として当たり前のこと。みんなが配慮できるようにになれば、働きやすい、優しい職場になっていく。障がい者にスポットは当てているが、「働きやすい職場作り」こそが、セミナーのテーマだ。

障がい者の就労定着を 支援するプログラムを開発

二〇一八年四月からは、精神障がい者の雇用が義務化される。現在、精神障がい者の就労数は増えているが、離職する割合も高い。「昨日までは元気だったのに急に辞めたというような話も聞きます。どうすれば精神障がい者の就労の定着をはかれるのか。それには、自発的に安定した状態を保てる人を育てることが必要



「合理的配慮」のセミナーとはまた別に、9月15日(火)に横浜市と共同で「障害者雇用セミナー2015」を開催。障がい者雇用企業による基調講演をはじめ、具体的な取り組み方法のヒントが得られる場となった

図表●「K-STEPシート」サンプル

自分自身の「良好・注意・悪化」にあたる状態のサインを、左から右へ良い順にシートに書き出し、毎日チェックすることで、周囲の人も状態を客観的に把握できるようになり、報告・共有がしやすくなる。

良好サイン										注意サイン										悪化サイン									
良好サイン										注意サイン										悪化サイン									
月		即答	決断力	楽観	美味	めげない	マイイカ	許せる	素直	イライラ	疲れる	億劫	心配性	後悔	やる気低	不味い	神経質	呼吸浅	睡眠不足	八つ当たり	強感情	泣く	なげやり	PC難	不笑	攻撃的	被害妄想	加害妄想	
1日	朝				○	○	○	○	○	○			○	○			○												
	晩							○		○	○	○		○		○		○											
2日	朝					○					○	○		○	○	○			○	○		○							
	晩												○	○	○	○					○		○						
3日	朝										○	○	○	○	○	○			○	○			○						
	晩							○		○	○	○	○	○	○	○			○										

良好サインの例

朝スッキリ起きられる、プラス思考ができる等

注意サインの例

言葉数が少なくなる、マイナス思考になる等

悪化サインの例

強いだるさがある、人に当たる等

良好サインの例
朝スッキリ起きられる、プラス思考ができる等

注意サインの例
言葉数が少なくなる、マイナス思考になる等

悪化サインの例
強いだるさがある、人に当たる等



「K-STEP」の開発アイデアをいただいた、「働くしあわせJINEN-DO」の北村さん

心や体の状態を自身で把握し、記録していくツールだ。まずは、ベースとなる書式を利用し、独自の「良好・注意・悪化」のサイン項目を書き出した体調などがチェックできるK-STEPシートを作成する。それを毎日続けると、次第に自分の体調の循環リズムが見えてくる。そうなれば、状態に合わせて早めに休憩する、コーヒーを飲む、などの対処もできる。本人は上司や周囲に「今こういう状態なので」と理解を求めやすくなり、企業側も適切なサポートや合理的配慮が行えるようになる。それが障がい者の安定した状態に、ひいては就労の定着にもつながるだろうとのねらいで開発された。

「川崎市内の就労支援事業所『働くしあわせJINEN-DO』からアイデアをいただき、効果があるかどうかサンプルを取りながら検討を重ねてきました。利用した現場からは良いツールだと好評をいただき、ある程度の効果が見えてきました」(滝口さん)。「ポイントは、体調を『見える化』すること。毎日の報告です。心や体の状態は、本人でもなかなか気付かないもの。それが、簡

九都県市「障害者の積極的な就労促進検討会」も設置

九都県市首脳会議でも、川崎市の提案から「障害者の積極的な就労促進検討会」を二〇一五年五月に設置。現在、九都県市で障がい者の就労を促進するリレーキャンペーンを実施している。川崎市は横浜市と共催で、九月一五日、今年で三年目となる「障

障害者の「働く」を一歩先へ、 もっと先へ。

九都県市は障害者の就労を 積極的に応援します

九都県市「障害者の積極的な就労キャンペーン」実施中

埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、
横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市

害者雇用セミナー」を開催。企業向けに障がい者雇用の進め方や採用時のポイントなど、すぐに実践できるアイデアを提供した。

また、障がい者が三日間の職場インターンにチャレンジする事業も好評だ。これまでに、延べ四〇社ほどの企業が、就労体験の受け入れを経験した。「こうした企業が増えることが、障がいがあっても働く意欲を実現できる社会作りにつながっていくと考えています。障がい者雇用を、大変そうだと重く考えるのではなく、企業も当事者も支援者も楽しみながら取り組んでほしい。私たちはそういった思いでさまざまな施策に取り組んでいます」(滝口さん)。